

秋闘、健保等級など引き上げ

不満足ながらも妥結

職場によるこびの声も

炭労が退職手当増額、救護隊手当やじん肺・せき損補償などの改善をめざした秋季闘争は終った。決して満足のゆく結果ではなかったとはいえ、これまで二年間も据え置きのままだった退職手当の基礎となる健保等級を引き上げたことは、不満足ながらも職場に一定のよこごも見られている。

一、基礎賃金について
健保等級現行の頭打ち額の、二三級―四三四百七十円を、一十三級―四四四七百七十円を、一級―二百六十円引上げ二十四級―四四七七百三十円とする。

二、定年退職者への一律加給について
(1)昭和五十四年十月二十九日付
賞書の賃別金を繰り入れるほ

を五万円増額する。(計算例は省略する)

が出してきた回答をもって妥結した。拡大中央闘争委員会として、「もちろん回答には不満」としながらも、「しかし健保等級を引き上げさせることができた」点を評価してゐる。

(2)右に伴い、昭和五十四年十月二十九日付定年退職者の餉別金に関する覚書は廃止する。

(3)省略。

(4)協定期間は同五十五年十月二
十四日より同五十六年十月二

退転金手当について
じん肺・せき損手当、救護隊手
炭労の確認事項によれば、回答
当もそれぞれ増額したもの、不
満足に終つたが、それでも退職手
の骨子は次の通りである。

女結

びの声も

当で健保等級が引き上げられたことをよろこんだ、一人の新労組員

（女子）は、三池労組員（活動家）に次のように語っている。

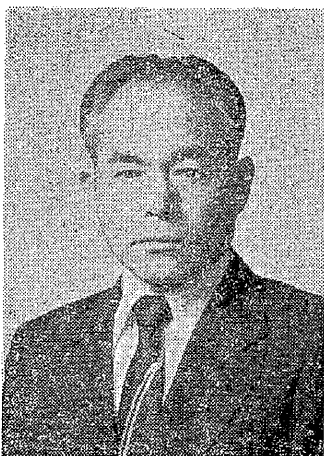
「こんどはがんばってもらってほしいとありがとうございしました。私は来年定年で退職しますが、健保等級を引き上げてもらったことで助かりました。皆さんによろしくお伝えください」

門田作を励ま
す市民大集会

きたる十六日の日曜日、午前十時から荒尾市体育館で、門田作を励ます市民大集会が、盛大に開催される。

これは「作ろうみんなの荒尾市」をモットーに、社会党荒尾総と成功を期している。

来年行われる荒尾市長選挙に、すでに出馬がきまっている門田候補を、組合としても中央委員会ですでに推薦決定。「こんどこそ」



荒尾市長候補
門田 作氏

負けず闘わなければ
終りに唄ったガンバロー

九月二
その夜は京都泊り。
十五日十
二十七日はひどい雨の中を京都
二時四十
見物。
五分、大
屋すきから雨も上がり、関西不
牟田駅に
知火会との交流までの時間つぶし
集合。い
に、大阪城をめぐり見学。あと
よいよこ
交流会場へ。皆さんで大観望して
れから東
下さり、心づくしのビールにおつ
京旅行に
まみが用意され、各々マ別にデー
出かける
ブルに着き、語に花が咲き、最後
組合員・
に皆で「炭掘る仲間」を唄って終
主婦会員
りとなりましたが、名残りは尽き
にそれぞ
ませんでした。
れバッチ
その夜は大阪泊りでした。

涙の東京交流

に負ける
終りに
それを胸
につけ、
二十三日二
時十分車
中の人となり、一路関西・関東め
として出発しました。

二十八日は新幹線で東京へ。関
東不知火会との交流会場へ直行。
会場には、「三池闘争二十周年の
集い」ということで、闘争時の資
料、写真、ハチマキ、バッジなど
など、三池でも見られないものま

京都と大阪で

二十六日朝八時十分大阪港に着き、すぐ待っていた大阪西鉄バスの貸切りに乗り奈良へ。雨が降ったやりやندりの一日でした。

三池大災害当時、すなわち三十八年の二月のこ
体制を着々とおし進めている。

「第三次合理化を強行した三井資本は、「黙」」で動く労働者づくし」を旨として、一方的な差別と低賃金を労働者に押しつけ、現場からのナマの声をおとしや弾圧で封じ込み、「会社が発展すれば労働者もよくなる」、と新労働部と結託、思想宣伝を行ってきた。三池闘争後、二年数ヶ月の間に二十四名の労働者が生産第一主義の犠牲者となった。合理化によって殺されたのであった。

三池労組はたび重なる災害に抗議し、数回にわたって保安団交を申し入れたが、会社は断固としてこれを拒否しつつ、その結果起こるべくして起きたのが三池大災害だったのである。

こんにち三池炭鉱では、減量合理化のもとに人員無補充のなり行き人員三千人で、二万トン出炭

体制を着々とおし進めている。

職場環境は、坑内温水平攪氏の六十度、現場の温度同じく三十五度、湿度が九〇%という高温で、幾ら抗議しても何ら解決をみず、そのため熱中症患者が続発している。生産体制に追いつけないほど作業人員が減らされている間接部門で、当然保安が手抜きされているからで、これを許すがぎり重大災害はへつ起るかわからないのである。

三池大災害十七周年を迎えるにあたっていま、一度自らの生活の実態、職場における保安、人員、環境などの実態を見直し、三池炭鉱に働くすべての労働者が「人間無視」の合理化は絶対に許さないことを意志統一し、統一闘争へ発展させな

ければならぬ。

日光のこと

でいたように、恥かしくなりまし
た。「負けられない、頑張らな
くは……」と、改めて肝に銘じ、
「ガンバロー」を皆で唄って別れ
夜の東京見物に出発しました。

日光のこと

二十九日は、早朝より日光に向
かいました。

華嚴の滝のすばらしかったこ
と。紅葉していたら二倍も三倍も
すばらしかったのでは、と思いな
がら東照宮へ。

ここでも目を見張ることはかり
でした。これだけのものが建てら
れた事に、どれだけの民百姓が泣
いたことかと、口ぐち話したこ
とでした。皆が労働者で、三井に
あらゆる面で搾取されているので
すぐ、そっちの方に結びつけて考
えてしまうのでしょう。労働者意
識のない人達とは、違う見方だっ

よかつた旅行

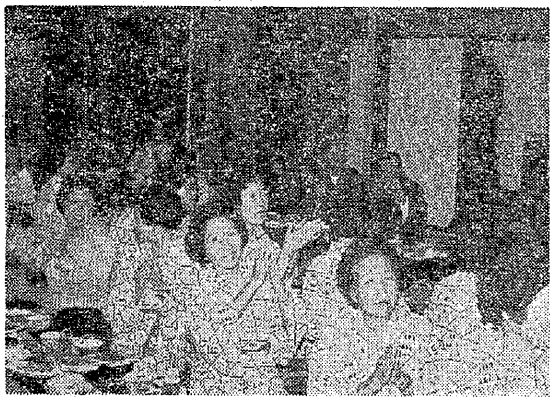
十月一日東京にもどり、それぞ
れに娘さんと息子さんの所へと別
れわかれになり、一般の者は羽田
から日航機で。無事帰宅できまし
た。

東京旅行記

主婦会 中内 栄子

主人は腰を痛め、少々体が「くの字」になっているので、出発の前日まで、二人でどうしようかと悩みましたが、やっぱり行っちゃったなどと思いついて引率して下さったとごぞです。松岡さん、前川さん大変お世話になりました。ご同行の皆様、お疲れさまでした。また行きたいなあ、と思っています。

(別に通寄せられていますがお号でご紹介しします)



三池製作所分会

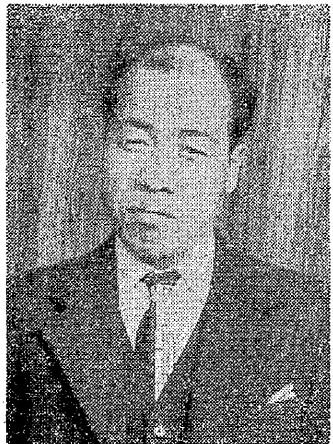
中川 清水さん

中川
きた。

▼：趣味は自然科学に関する読書。「地球上の生体系の破壊が問題になり、文明とは何かを考えずにはいられないことでもありますし……」と中川さん。

三作（正しくは三井三池製鉄所）の職場で、三池労組の旗を守りながら闘っている。

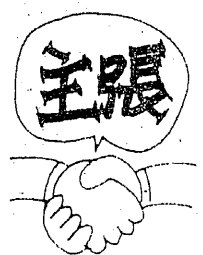
三作支部が、組織ぐるみで三池労組を脱退した三池闘争初期、会社の余りにもあからさまな飲ませ食わせ、その陰で踊る支部幹部らのみにくい動きなどが許せず、意を決して仲間とともに



勤続37年で54歳。妻＝千鶴さん(48歳)と牟田に3人。大田に歴木 1807-559に大住。

見逃すな、人間無視を

三池大災害17周年を迎えるに当たって



主張

三池炭鉱に勤
くすべての労働
者と家族を、深
い悲しみと不安
のどん底に突き
落とした三川鉦

大災害（昭和三十八年十一月九日）から、早くも
十七周年を迎えた。

人間の生命より、ひとかケラの石炭を大切にす

る三井實本の合理化が、一瞬にして四百五十八名の命を奪ひ、八百三十九名の一酸化炭素（COガスを）中毒被災者をつくりだしたのである。そしていまなお深いツメ跡は消えないばかりか、その後にもこれまでに百二十五名の労働者が、炭鉱災害によつて無惨な死をとげ、一万五千名以上の重傷者を出すなど、あのように大量の労働者の命を奪つてもなおはばかることなく、労働災害が続いてい